

会 議 概 要

会議の名称	令和 3 年度第 2 回久喜市立図書館運営審議会
開催年月日	令和 3 年 1 1 月 2 日 (火)
開始・終了時刻	午後 2 時 0 0 分から午後 4 時 0 0 分
開催場所	鷺宮総合支所 4 階 4 0 6、4 0 7 会議室
議長氏名	塩崎 勲 (会長)
出席委員 (者) 氏名	塩崎 勲・佐藤利幸・松本秀樹・三根 和・玉置政美・ 鈴木一雄・芋川 修・柴崎和雄
欠席委員 (者) 氏名	青山里美・沖沢香織
説明者の職氏名	諏訪生涯学習課長補佐兼図書館係長・小林中央図書館長・井上 菖蒲図書館長・藤川栗橋文化会館図書室館長・佐々木鷺宮図書 館長
事務局職員の職氏名	柿沼教育長・野原教育部長・吉澤教育副部長・坂東生涯学習課 長・小林生涯学習課主幹・諏訪生涯学習課長補佐兼図書館係長・ 長谷川担当主査兼司書・福島主任・小林中央図書館長・井上菖 蒲図書館長・藤川栗橋文化会館図書室館長・佐々木鷺宮図書館 長
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 令和 3 年度事業中間報告 (2) その他 4 閉会
配布資料	令和 3 年度第 2 回久喜市立図書館運営審議会次第 1 資料 1 令和 3 年度事業中間報告 2 別紙 『久喜市立図書館の基本的運営方針』に基づく項目 一覧』 名簿
会議の公開又は非公開	公開
傍聴人数	0 人

審 議 会 等 会 議 録

発 言 者	・ 会 議 の て ん 末 ・ 概 要
司会（諏訪課長補佐）	<p>皆様、こんにちは。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございますございます。本日の司会を務めさせていただきます生涯学習課図書館係の諏訪と申します。どうぞよろしく願いいたします。また、本日も新型コロナウイルス感染症対策のため、間隔を空けて座っていただいておりますので、ご了承いただきたいと存じます。</p> <p>それでは、ただいまから令和 3 年度第 2 回久喜市立図書館運営審議会を開会させていただきます。開会に先立ちまして、現在の出席委員につきまして、ご報告いたします。委員 10 名中、出席委員 8 名でございます。この人数は、久喜市立図書館運営審議会規則第 3 条第 2 項に規定する定足数に達しておりますので、この会議が成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>次に、本日の会議の資料を確認させていただきます。事前に送付いたしました資料でございますが、まず次第、資料 1「令和 3 年度事業中間報告」、別紙「久喜市立図書館の基本的運営方針に基づく項目一覧」、それと名簿となっております。お手元におそろいでしょうか。本会議は、久喜市審議会等の会議の公開に関する条例第 3 条の規定に基づき、原則公開としております。また、同条例第 9 号及び第 10 号の規定に基づき、会議録を作成して、公開するため、本日の会議の内容を録音させていただきますので、ご了承いただきたいと存じます。なお、会議録の作成にあたり、音声を認識する会議録作成システムを導入しております。マイクを通して話していただきますと、文字として起こされますので、発言の際はマイクを使用させていただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは続きまして、塩崎会長よりごあいさつを申し上げます。</p>
議長（塩崎会長）	～会長あいさつ～
司会（諏訪課長補佐）	ありがとうございました。続きまして、柿沼教育長よりごあ

いさつを申し上げます。

柿沼教育長

～教育長あいさつ～

司会（諏訪課長補佐）

ありがとうございました。なお、教育長におかれましては、次の公務のため、ここで退席させていただきますので、ご了承くださいたいと存じます。

それでは早速会議に入らせていただきます。議事の進行につきましては、久喜市立図書館運営審議会規則第3条第1項の規定により、会長が議長になることになっておりますので、塩崎会長をお願いいたします。

議長（塩崎会長）

はい。それでは、議事進行を務めさせていただきます。円滑に議事が進行いたしますよう皆様方のご協力をお願いいたします。今回会議録の署名委員は、鈴木委員さんと芋川委員さんをお願いいたします。

それでは早速議事に入らせていただきます。今日はテーマが1つなので、懇切丁寧に説明をしていただければと思っています。

最初の令和3年度事業中間報告についてを議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

小林中央図書館長

中央図書館 小林でございます。よろしくをお願いいたします。資料1、令和3年度事業中間報告を基にご説明をしたいと思います。まず1番の利用状況からです。

～資料に基づき説明～

議長（塩崎会長）

はい、1番の利用状況につきまして説明がありました。ここで質問を承ります。佐藤さん、どうぞ。

佐藤委員

はい。お願いします。

今ご説明がありました中で、一番最後のレファレンス件数というところがありました。菖蒲と栗橋は極端に少ないけれども、中央・鷲宮が、大分多いですよね。

ここが極端に違うと思うんですが、何か考えられることがあるのでしょうか。

議長（塩崎会長）	大分違いますね。調査していますか。
井上菖蒲図書館長	菖蒲図書館の井上です。こちらの件数なんですけれども、毎日の問合せ状況とかも日報を通してあげてはいるんですが、スタッフに声をかけても、問合せはないということにして、予約の申し込みや、あと、新刊、この本どこにあるっていう場所の話とかはあるんですけれども、具体的なそのレファレンスと言えるような問合せを受けていないというのが現状でございます、この数字のとおりとしか申し上げることができない状況です。
議長（塩崎会長）	該当するような質問がなかったということね。
井上菖蒲図書館長	はい。なのでコロナ禍の前後という比較で考えますと、やはり接触を避けてらっしゃるのかなという印象が取れるんですけれども、まだその断定ができないといいますか、何とも言いようのない。菖蒲だけの極端に少ない数字で申しわけないなということで。
議長（塩崎会長）	そうだね。栗橋は117件か。
藤川栗橋文化会館図書室館長	栗橋図書室の藤川です。栗橋図書室も極端に減ってはいないんですけれども、菖蒲図書館と同じようにレファレンスでいろんな本を調べて、データ調べてっていう問合せは日々の中ではあまり多くなくて、場所ですとか新聞とかで、こういった本、見たり聞いたりしたんだけど、どこにあるかなっていうぐらいの問合せが多くなっております。
議長（塩崎会長）	なるほどね。佐藤さんどうぞ。
佐藤委員	はい、わかりました。逆に中央や鷺宮は大分多いですよ。そういった内容の相談とか調査をお願いされることが多いんでしょうかね。
議長（塩崎会長）	中央と鷺宮の内容はどんなものかということですね。
小林中央図書館長	はい。中央の小林です。大変申し訳ございません、それに対するお答えを今日はご用意していませんので、何とも言いよう

がなくして申し訳ございません。鷺宮はどうか。

佐々木鷺宮図書館長

はい、鷺宮の佐々木です。やはり鷺宮で受けているのは、利用されたい方が本のタイトルを直接聞かれて、この本はありますかというような問合せが大多数です。その他に聞かれるっていうことで言いますと、2階に郷土資料館がございますので、そうした郷土の資料の関係についての問合せです。

それから、わずかですけども、今日あったのは、例えば、竹垣を補強したいが、その竹垣の紐の結び方について載っている本ありますかというような、お困り事を解決するために利用された方が、解決するための本はありませんかというようなことで問合せされることがあります。

議長（塩崎会長）

これは対象者によって分けられるってということもありますか。若い人が多いの、それとも、一般の人が多いの、レファレンス申し込んでくる人は。

小林中央図書館長

そういった意味では年配の方、大人の方ですね。やっぱり子どもはあまりないですね。

議長（塩崎会長）

少ないですね。鷺宮も同じですか。

佐々木鷺宮図書館長

はい。

議長（塩崎会長）

佐藤さんよろしいですか。

佐藤委員

はい。

議長（塩崎会長）

ありがとうございました。他に質問ございますか。

小林館長、令和2年度と3年度ということの比較なんだけど、やっぱりまだ何となく、離れちゃったって感じがありますか。

小林中央図書館長

おっしゃるとおりで、指定管理を受けて3年目に入ってますが、かつての土日ってというのは中央でいえば700人、800人という入館者がいらしたんですが、このところ土日であっても300人、400人。平日も300人で、つまり何らにぎわいのない淡々とした日々が続いてるといいますか、戻ってらっしゃらないです

ね。

議長（塩崎会長）

御社が指定管理になった途端に、コロナに遭遇しちゃったから気の毒だけどね。ひとつ努力してもらって。復活を願います。

他にご質問ございますか。よろしいですか。

それでは2の自主事業の（1）、調べる学習コンクールということでございます。丁寧に細かく説明してください。お願いします。

井上菖蒲図書館長

菖蒲の井上です。児童向け講座の調べる学習コンクールなんですけれども、事務局として携わっておりますので、私の方から説明をさせていただきます。よろしく申し上げます。

まず、今回開催しました第1回久喜市図書館を使った調べる学習コンクールですけれども、大元が公益財団法人図書館振興財団が主催しております第25回図書館を使った調べる学習コンクール、こちらは全国コンクールとなっております、そちらの地域コンクールの初回ということで開催をさせていただきました。

この地域コンクールで優秀な成績をおさめた作品が、全国コンクールの三次審査に推薦、応募ができるという内容になっております。

応募総数の1.5%以内を三次審査に推薦、応募ができるという内容になっておりましたので、今回、応募総数907ありましたので、その1.5%ということで、13.6まで応募ができるという計算結果でしたので、受賞した12作品全てを推薦させていただこうということで、提案をさせていただきました。

こちらの関連講座なんですけれども、今回初めて開催するにあたって、調べる学習コンクールの作品の作り方ですか、どういうふうに取り組んだらいいかっていうのも、まず学校の方でもよくわからない状況かと思われましたので、出前講座、あとは図書館で開催した調べる学習応援隊、調べる学習講座、こういったいろいろな催し物をおしまして、説明等のサポートをしておりました。

出前講座に関しましては、それぞれの図書館で担当している学校の方に、こういうことができますよということでご案内をさせていただいた結果、中央図書館と菖蒲図書館の方で、こちらの日程で児童を対象に、講座をさせていただきました。

またこの調べる学習講座というのは、開催日にもありますように夏休み中の図書館の行事ということで、夏休み中に作品作りを主にされるお子さんが多いので、そうしたお子さんが参加しやすいように夏休み中に各図書館の方でサポート事業という形でイベントを開催いたしまして、それぞれの図書館で16人から25人までの幅広い参加があったということです。

ちなみに菖蒲では5人の方が参加いただきました。こうしたサポートもあったおかげか、初回で907という多くの作品を8月30日から9月10日の応募期間中に、各学校から提出していただくということに繋がった次第であります。

この集められた907作品なんですけれども、それぞれの図書館の方で、管轄している学校を決めておりますので、各図書館の中で、まず一次審査という形で集められた作品の内容を吟味いたしました。

そしてその吟味の結果、45作品まで絞り込んだ状態で鷺宮図書館に一堂に会しまして、10月8日金曜日に最終審査会という形で教育長を始め、教育委員会の方々、あとは、審査に参加協力をいただきました学校の先生方、合計10名、そこに我々図書館の館長も含めまして合計17名、最終審査ということでそれぞれの作品を見て、部門ごとに教育長賞、図書館長賞、奨励賞の3つの賞を決めていったという流れでございます。

ちなみに今回の審査対象なんですけれども、小学生低学年の部、小学生中学年の部、小学生高学年の部、中学生の部、こちらの4部門それぞれに3つの賞を用意して、合計12作品の入賞という結果になっております。

今回こちらで入賞した作品なんですけれども、この会場の後ろの机の上に12作品全て並べさせていただいておりますので、よろしければ後程お手にとってご覧いただければと思います。

議長（塩崎会長）

どこに掲載してるの。

井上菖蒲図書館長

掲載ではなく、この会場の後ろで、現物を置かせていただいています。

議長（塩崎会長）

ちなみに小学校低学年あるいは中学生でどんなものが出されたのか、幾つか述べていただけますか。

井上菖蒲図書館長

～受賞作品の現物を見せながら説明～

こちらが小学生低学年のお子さんで教育長賞を受賞しましたもので、「カブトムシの成長と種類について」という題名で、この画面いっぱい絵を描いて、図書館の本を使って調べたり、実際に捕まえて観察したものを調べたりとか、そういったことを自分でこれは何でだろうっていうふうに、子どもが考えたことを自分なりにその図書館の資料とか本物・現物、そういったものを見ながらまとめたもので、この作品になるんです。

次は中学年の部です。教育長賞を同じく受賞したんですけれども、久喜の提燈祭りのことを調べた作品になっております。こちらのおさんは、提燈祭りにそれぞれの地域があると思うんですけれども、そこへ山車を引いている方々と一緒に写真を撮ったり、その提燈を作っているところを見学に行ったり、より久喜市の提燈祭りのことをもっと深く知りたいっていう意欲的に取り組んでまとめた作品になってるんです。

議長（塩崎会長）

なるほどね。

井上菖蒲図書館長

続いて、小学生の高学年の部では、教育長賞を受賞しました、「エアコンって通じないんですか。和製英語との戦い」という題名になってまして、いわゆる片仮名語っていうもので、自分が外国の方としゃべるのに、エアコンという言葉が英語では通じないということに衝撃を受けた、それが研究のテーマなんです。

そこから、実際に通じる片仮名の言葉は何だろう。あとは、実際に英会話の先生とやりとりをして、通じるものと通じないものをマルバツを付けて比べていったりと、そういったことを自分なりにまとめて作品に仕上げたという経緯がありますので、これはぜひ、お手にとってどういうふうにまとめているかを見ていただきたい内容でございます。

小林中央図書館長

要するに、スーパーって言いますよね。スーパーマーケットですが、英語では通じない。ズボンというのも通じなくて、これはパンツですとか。

要するに日本語なんです。英語のように見えるけど実は日本語の片仮名語だった。それがやっぱり小学生にはわからないですね。これは我々大人もわかりづらいですから。それほど細かく分析しております。力作だと思います。



井上菖蒲図書館長	<p>最後、こちらが中学生で教育長賞を受賞しました「ムサシトミヨから、身近な水について考える」というテーマで研究された内容でして、実際に埼玉県天然記念物にもなってますので、このムサシトミヨのことを調べたい、じゃあどういうところに生息しているんだろう、どういうふうに住んでいるんだろう、というのを実際に水族館に行って、目で見て、係の人に話を聞いて、また図書館とかのいろんな資料を使って、自分なりに調べたというのがこちらの作品になっております。</p> <p>こういったお子さん自身の前向きな疑問、そしてそれを自分の力だけでなく図書館に行って資料を見る、現物を博物館や水族館で調べる、実際に祭に関わっている人の話を聞いて、インタビューをして、自分なりに調べてみるっていうそのアクティブラーニングを1つの作品という成果という形でまとめていただくのが、この調べる学習コンクールとなっております。</p>
議長（塩崎会長）	<p>ありがとうございました。どうぞ席に着いてください。質問、お願いします。</p> <p>これはあくまでも1人でやるっていうことが前提なの、それともグループでやってもいいの。</p>
井上菖蒲図書館長	<p>これは、お子さん1人で取り組むものもありますし、共同で何人かで1つの作品を作るっていうことも可能です。あと全国コンクールの方には、親と子の部門というのもあります。</p> <p>今回の地域コンクールでは、親子の部門は設けていなかったもので、あくまでもお子さん1人、もしくはお友達と共同でのどちらかになっております。</p>
議長（塩崎会長）	これは、期限は区切ってやってるの。
井上菖蒲図書館長	そうですね。応募の受付期間の間に提出していただければ大丈夫です。
議長（塩崎会長）	受付期間はどのくらいなの、1ヶ月とか2ヶ月とか。
井上菖蒲図書館長	今回設定したのが8月30日から9月10日までの約2週間です。
議長（塩崎会長）	2週間でやるんだ。

井上菖蒲図書館長	それまでの間に作品を作ってあればいいので、あくまでも提出の受付期間ということです。
議長（塩崎会長）	主に夏休みを使っていいわけだね。
井上菖蒲図書館長	そうですね。
議長（塩崎会長）	<p>かつてこの辺でもやったよね。昔、春日部でね。蜘蛛の研究で一時、全国まで名前を出した方もいましたよね。</p> <p>最近たまたま夕方テレビを見ていたら、奈良はツバメが集まるらしいんですね。渡り鳥ツバメ。あれが奈良は6万羽ぐらい集まるんですって。どうして何だかわかりませんがね。やっぱりきっとツバメが住みやすいんでしょうね。きっとね。気候やあるいは森や何か等々考えるとね。子どもさんが小学生から中学、大人までずっと、ツバメの研究をしまして。やっぱり地域も協力してましてね。これもすごいことだなと思って何となく見てたら、そこへちょっと引きつけられましたけどね。そういうことなんだろうな。</p> <p>いかがですか。ご質問ございましたらここまでのところで。これをどう調べるかが、特に図書館を利用してくれれば、なおいいわけですね。それが一番でね。</p>
井上菖蒲図書館長	<p>はい。コンクールのテーマにもありますように、図書館を使った調べる学習コンクールってということになりますので、図書館の資料を使っていただく促進になればということで、取り組みが始まったところです。</p> <p>ただそれだけではなく、今はインターネットで調べるですとか、あと調べるための資料としては新聞ですとか、いろんなものもありますので、そういったメディアリテラシーという、いろんなものを見比べて、正しい情報を結論にたどり着くっていう能力を養うことに繋がればというふうにも活動しております。</p>
議長（塩崎会長）	<p>はい。ありがとうございます。ご質問ありましたらどうぞ。</p> <p>はい。松本副会長お願いします。</p>
松本委員	どうもお疲れ様でした。ちょっと何点かお伺いしたいんですけども、まず1点目、あとで後ろを見ればわかるんですけど、

それぞれ低・中・高・中学校でどこの学校のお子さんかっ  
てい  
うのを教えていただきたいのが1点です。

2点目です。関連講座の出前講座ですけれども、図書館で学校  
にお伺いしているようですが、学校の方から講座をお願いします  
ということ、依頼があったんだと思うんですけども、それ  
ぞれ中央と菖蒲どこの学校に行かれたのかを教えてください。

あと、調べる学習講座、それぞれ4館でやっております。それ  
ぞれの参加人数も違いますけれども、実際にこの調べる学習講  
座に参加したお子さんたちの中で、入賞した子はいたのでしょ  
うか、あるいは佳作に該当した子がいたんでしょうか。それも  
わかったら教えてください。

最後に、多数応募があった小中学校ってありますけど、具体  
的にどこの学校だったか、もしわかれば教えていただきたいと  
思います。以上です。

井上菖蒲図書館長

では、まず、受賞したお子さんそれぞれの所属の学校から回  
答させていただきます。

まず小学生低学年の部、教育長賞を受賞したのが、砂原  
小学校2年生です。図書館長賞を受賞したのは、本町小学校1  
年生です。奨励賞を受賞したのが、鷺宮小学校2年生です。

続きまして小学生中学年の部、こちら教育長賞を受賞したの  
が、青葉小学校の4年生です。図書館長賞を受賞したのが、砂  
原小学校3年生です。奨励賞を受賞したのが、青葉小学校3年  
生です。

続きまして、小学生高学年の部、教育長賞を受賞したのが、  
桜田小学校5年生です。図書館長賞を受賞したのが同じく桜田  
小学校6年生です。奨励賞を受賞したのが、青葉小学校5年生  
です。

最後に、中学生の部、教育長賞を受賞したのが、鷺宮東中学  
校2年生です。図書館長賞を受賞したのが、鷺宮西中学校1年  
生です。奨励賞を受賞したのが、久喜南中学校2年生です。以  
上の12名の方が受賞されました。

質問の2つ目なんですけれども、出前講座でどこの学校に行  
ったか、なんですけれども、まず菖蒲の地域なんですけど、菖蒲  
小学校、菖蒲東小学校、小林小学校、以上の3校から依頼をい  
ただきまして、出前講座を開催いたしました。

小林中央図書館長	中央図書館は、青葉小学校と久喜南中学校です。
井上菖蒲図書館長	すいません、3つ目の質問なんですけれども、上手く聞き取れなかったんですが、もう一度よろしいでしょうか。
松本委員	はい、すいません。いわゆる関連講座として調べる学習は、4館それぞれ実施されたかと思うんですが、この講座に参加した子どもたちの中で、受賞したお子さん、あるいは佳作になったお子さんって、いらっしゃったのかどうかを知りたかったんです。
井上菖蒲図書館長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>菖蒲図書館で開催しました調べる学習講座に参加したお子さんの中から、最終審査会に進んだ作品が出ておりまして、そのお子さんは佳作に入選いたしました。</p> <p>すいません、説明が足りず申しわけないんですけれども、今回の受賞に関しまして、最終審査会のときに、事務局の方から提案をさせていただきまして、45の作品が最終審査の対象になったその中で、12に絞るにあたって、他の作品もどれもそのまま何もないのでとてももったいないということで、最終審査に進んだけれども惜しくも12作品に選ばれなかった他の作品全てに対して、今回佳作ということで新たに賞を設けることになりました。</p> <p>また、この第1回コンクールに際しまして、作品の応募数の多かった学校、あとは、児童の少ない学校が多数の作品を出していただいたので、児童数に対しての提出率の高かった学校ということで、青葉小学校、小林小学校、栗橋南小学校、栗橋西中学校、鷺宮小学校、鷺宮西中学校の6校に対して、学校賞を設けるということを審査会で提案いたしました。この後、賞状を作って後日お届けするということになっております。</p>
佐々木鷺宮図書館長	<p>講座に参加して入賞した子ということなんですけれども、先ほど紹介のありました低学年のカブトムシの子は、鷺宮の講座に参加して受賞されました。</p> <p>高学年のところで紹介された和製英語について調べた子は、中央の講座に参加して、中央でもいろいろなことを聞かれて調べていた子です。今のところ把握しているのは、その子たちです。</p>

井上菖蒲図書館長	3つ目の質問への回答は以上でよろしいでしょうか。
議長（塩崎会長）	よろしいですか。
松本委員	はい、大変ありがとうございました。 つまらない質問したようだと思うかもしれませんが、いわゆる講座に参加してくれた子どもたちがどの程度頑張ったか。 当然、この子どもたちは全員が応募したのだと思うんですけども、その中で非該当もあったり、実際に子どもたちの意欲になったりして、結果は違ったと思うんですが、やはり1つの目当てをもって参加した子どもたちだったのでどうなのか、ということでお伺いしました。どうもありがとうございました。
議長（塩崎会長）	はい、ありがとうございました。
井上菖蒲図書館長	先ほど、4つめの質問としていただいております市内のどれだけの学校がこの作品応募に関わっていただいたのかという数字なんですけれども、市内に全部で小学校が22校あるんですけれども、その中で今回作品の応募にご協力いただいたのが17校です。 中学校が市内に全部で11あるんですけれども、作品の応募にご協力いただいたのは6校です。
議長（塩崎会長）	なるほど。このコンクールは、毎年やる予定なんですか。
井上菖蒲図書館長	はい、来年度以降も継続して、予定しております。
議長（塩崎会長）	入賞した人はいいいけど、せっかく出して入賞されなかった人も気の毒だから、何か適当な賞を考えてあげてくださいね。珍しいものだったらね。珍しい賞のように、付けてあげるとか。
井上菖蒲図書館長	そうですね。今後の展開として特別賞だったりとかも検討の余地はあるかなとは思いますが。 今回応募いただいた全てのお子さんに対して、参加賞という形で主催となっております図書館振興財団の方から、参加賞のクリアファイルが後程こちらに届けられるということで、作品と一緒にお子さんの手元に残るような形になります。

議長（塩崎会長）	<p>そうですか。私が担当してる国税局のと一緒にやってる中学生の作文コンクール、あれは全部クリアファイルを参加賞として出してます。はい。よろしく願いいたします。ありがとうございました。</p> <p>続けて一般講座の方、続けてください。</p>
小林中央図書館長	～資料に基づき説明～
議長（塩崎会長）	はい、ここまでご質問ございますか。
玉置委員	この中で参加延べ人数っていうのがありますけど、これは同じ方が何回も来てるっていうことですか。
小林中央図書館長	<p>参加延べ人数は、延べですからそういった意味では同じ方もいます。</p> <p>でも子ども1日図書館員は1日だけの事業ですので、延べと言いながら1回だけですね。</p> <p>ブックリサイクルは、人数じゃないですし。</p> <p>例えば子ども読書通帳、大人の読書通帳は延べですから同じ方がって可能性はあります。</p> <p>あと電子図書館も当然同じ方が毎日ログインすれば人数として加わりますし、書籍消毒機もそういった意味では延べですので、同じ方が何回も使うってことは考えられます。そういう意味で、全て同じ方がいるってことになりますね。それでよろしいでしょうか。</p>
議長（塩崎会長）	玉置さんいいですか。
玉置委員	はい。わかりました。
議長（塩崎会長）	他にございますか。三根さん。
三根委員	図書館郷土講座なんですけれども、もちろん講師の先生がいらっしゃると思うんですけれど、こういう教室で講義してもらうのか、それとも外へ出るんですか。そういう予定はない。
井上菖蒲図書館長	菖蒲は再来週の14日に開催予定になっておりまして、こちらは教室の中に講師がおりまして、参加の方が教室のように講師

のお話を聞くという形を想定して、今準備を進めているところです。

議長（塩崎会長）

三根さん、よろしいですか。

三根委員

はい。

議長（塩崎会長）

どうですか、ブックトークは、順調に進んでいますか。

小林中央図書館長

順調でございます。

議長（塩崎会長）

大事なイベントですから、よろしく願いしますね。一応この項はよろしいですか。はい、松本副会長。

松本委員

1点だけお願いします。子ども読書チャレンジ子ども読書通帳の件で、現在その読書通帳の配布部数ってどのくらいかわかりますか。ここに書いてある子どもの人数でよろしいでしょうか。あと、図書館として積極的に子どもに配布するような、何か方策はとっていらっしゃるのかどうかということも併せてお伺いできればと思います。

小林中央図書館長

これは直営時から続いている事業で、当初のやり方というのは存じ上げないんですが、現在では求めに応じて利用者さんにお渡ししているものです。これは渡した数をこの半年間の累計として出しております。

ですから、こちらから図書館側から利用者に対して読書通知をどうぞ使ってくださいという渡し方ではなくて、利用者の方から書きたいのだからくださいって言ったときにお渡ししているという事業になっております。

松本委員

そうすると、子どもたちの読書通帳があるということを、子どもたちに対する周知の方法とか、そういうのはどのようにされてるのでしょうか。あるのがわからなければ、くださいってということにもならないと思うんですけども。

あと、位置付けとして、どの程度の位置付けを持ってこの読書通帳事業をやっているのかということも併せて教えてください。

藤川栗橋文化会館図書室館長 周知なんですけども、カウンターのところに見本のようにして置いていて、こちらがあります、欲しい方はお声がけくださいって感じで周知をしております。

子どもの方も大人の方も同じような感じで、申込みしていただいてお渡しをして、こちらの通帳がいっぱいになったらまた次、2冊目以降ということでお渡しを続けています。

松本委員 ということは図書館に行かないと、この読書通帳があるということ子どもたちはわからないということですか。

藤川栗橋文化会館図書室館長 そうですね。ご来館いただいてってことです。

松本委員 なるほど。積極的に子どもたちの読書活動を推進していく上でも、学校なんかは読書カードっていうのがあって、いろんなことを書いてやってるんですけども、それに類するものだと思うんですが、こういう事業をやるのであれば、読書通帳の子どもたちへの周知は、どこの子ども全部図書館に行けるってことではないと思うんで、やはり図書館に行ける子とかは限られてしまうと思うんですが、例えば図書館に近い学校に。

例えばブックトーク等で行ったときに、例えば学校訪問したときに、こういう制度がありますよ、これもありますよ、貯まりますよ、ということも1つ考えられるのかなということと、ブックトークなんかでたくさん本を紹介すると子どもたちが、その本読みたいなっていう声も聞こえてくるんですね。

ただ、その図書館にしかないとする、図書館にありますよって、行ったらこういう通帳もありますよというような、手だても一つ考えられるのかなということがあるので、せっかく子どもたちが積極的に読書に親しむための1つの方策であると思っておりますので、何かいろいろと工夫していただけるとありがたいなと思います。以上です。

議長（塩崎会長） ありがとうございます。

継続事業のところ、ここまでよろしいですか。続いて中央図書館以降、これ要点で結構ですから。

小林中央図書館長 ～資料に基づき説明～

議長（塩崎会長） はい、ここまでで何か質問ございますか。



	<p>今年は、巢ごもりとかがあったから、映画会の人数は大したことないけれど、いつもよりはね。</p>
小林中央図書館長	<p>やはり映画も密室といいますか、ドアを空けてやっているんですが、あまりよくないですね。</p>
議長（塩崎会長）	<p>はい、わかりました。 それから、朗読講座は、今年はまだ未定なんだね。</p>
小林中央図書館長	<p>春先はやはり行事が開けなかったこともあって、例年春先にやっていたものですから、先生との都合でまだ日程が決まっていないということです。やるつもりでおります。</p>
議長（塩崎会長）	<p>図書館の読み聞かせボランティア講座は。</p>
小林中央図書館長	<p>これもやっぱり同じですね。</p>
議長（塩崎会長）	<p>この辺は、募集かければ結構来るんだ。</p>
小林中央図書館長	<p>一定の人数の方に来ていただいています。</p>
議長（塩崎会長）	<p>はい、ありがとうございます。 続いて菖蒲図書館、お願いします。</p>
井上菖蒲図書館長	<p>～資料に基づき説明～</p>
議長（塩崎会長）	<p>ありがとうございました。ご質問ございますか。 私の方から。子ども読書の日というのは、4月29日なの。</p>
井上菖蒲図書館長	<p>春の読書週間、子ども読書の日というのは4月29日ぴったりではないんですけれども。 すいません正確な日付がすぐに出てこなくて申し訳ないんですが、祝日の29日でしたらイベントを開催してもお子さんが参加しやすいんじゃないかということで計画していました。</p>
議長（塩崎会長）	<p>はい、わかりました。ありがとうございます。 続いて栗橋文化会館図書室お願いします。</p>

藤川栗橋文化会館図書室館長	～資料に基づき説明～
議長（塩崎会長）	ありがとうございました。ご質問ございますか。 御朱印帳をつくろうって、御朱印帳の表紙を作るの。
藤川栗橋文化会館図書室館長	和紙の白い紙を折って作って、実際に御朱印帳としても使えますし、普段のノートとして使っていただいても大丈夫なものです。
議長（塩崎会長）	きれいなものができるんですね。
藤川栗橋文化会館図書室館長	そうですね。皆さん満足して帰っていただきました。
議長（塩崎会長）	「和の響きとおはなしの世界」は、和太鼓とか笛とか尺八とかやるの。
藤川栗橋文化会館図書室館長	尺八とお琴の方2名に来ていただく予定です。
議長（塩崎会長）	地元の方ですか。
藤川栗橋文化会館図書室館長	演奏は地元の方ではないんですけども。 おはなしの世界のほうの昔話の語りは地元の方です。
議長（塩崎会長）	バックグラウンドでやるわけですね。バックグラウンドで尺八や太鼓の演奏で、一方でお話をしながら。
藤川栗橋文化会館図書室館長	バックグラウンドではなく、別になります。おはなしの世界の昔話を聞く方と演奏の方は別で、一緒にはならないです。
議長（塩崎会長）	楽しみですね。はい、ありがとうございました。 では、鷺宮図書館お願いします。
佐々木鷺宮図書館長	～資料に基づき説明～
議長（塩崎会長）	はい、ありがとうございました。次の連携事業は鷺宮ですか。
小林中央図書館長	これは各館で担当しております。

～資料に基づき説明～

議長（塩崎会長）

たくさん、イベントがあつてこれがまた売り物なんでしょうけど、何か質問ございますか。

昔と比べて、当然指定管理になればイベントがたくさん増えるっていう話は伺ってたけど、この2年間でどのくらい増えてますか。20から30増えていますか。

小林中央図書館長

ちょっと、正確な数字は言えませんが、そんなには増えていません。

議長（塩崎会長）

はい。また、ちょうどコロナになっちゃったから余計だね。わかりました。ありがとうございました。

長時間にわたって、中間報告を伺いました。

最後にもう1回、まとめてでも何でも結構でございます。ご質問ございますか。はい。鈴木さんお願いします。

鈴木委員

はい。失礼なことをお聞きするかもしれませんがご了承ください。図書館のイベントとか催しものっていうのは、久喜の広報紙に載っているイベント内容とかいろいろな催しと同じなんでしょうか。大体同じ。

井上菖蒲図書館長

こちらに載せておりますそれぞれの事業、それぞれの館で開催するようなイベントごとに関しましては、広報くき、あとは図書館だより、ホームページ等で周知、告知をさせていただいております。あと、図書館の方でツイッターも行ってますので、そちらでの紹介もしております。

鈴木委員

この審議会に参加させていただいてからで申し訳ないんですけど、いろいろ図書館のことですとか、読書のことですとか、いろいろそういうことが載ったら新聞に目を向けたり、そういうふうになってきたんですね。

うまく言えませんが、今までは広報を見ても、何かこう大事なところだけで、図書館の所が大事じゃないってわけじゃないんですけど、何か飛ばしちゃっていることが多かったんです。でも、皆さんと一緒にこういうお話をさせていただいているので、こう目を向けるようになってきたんですね。

そんなふうを考えていくと、親御さんとか子どもで、子ども

は見ないでしょうが、お母さんお父さんっていうのは、こういう図書館のところに結構目を向けているのかなって。

こういう行事があった、イベントとか催し、図書館でやるのを知らない方ももしかしたら多いんじゃないかという気がしたんですね。

それから、図書館の前を通ったりすると、結構掲示板にこういうふうなのをやってますとか、情報とか、行事予定は書いてあるんですが、なかなかちょっとそういうの見ないで通り過ぎちゃう。私が今まではそうだったんです。

最近足を止めて、図書館の方を見るようにしているんですが、その辺の周知の仕方、そういうのをもう少しいろいろ工夫して、いろいろなさっているのもよくわかるんですけど、どこまで届いているのか。

もう少し周知の仕方、もう少し何かいい方法があれば、もっともって図書館に足を運ぶような気がしています。以上です。

議長（塩崎会長）

はい、ありがとうございます。図書館のPRが少ないってわけね。鈴木さん。

広報も一応図書館のページがあるんだけど、何となくページが華奢なんだよね。正直言って。もうちょっと重厚味を増して、図書館に目を向けるような作り方をした方がいいんじゃない。

今、鈴木さんの言うようなことはおそらくそんなことを言ったんだろうと思う。ちょっとアピール度が足りない。

もうちょっと図書館らしいページの作り方をした方がいいな。なんか枠で漫画みたいな並べ方してるけど、漫画というかアニメが流行ってるから結構だけど、もうちょっと何かしっかりした作り方で、アピールするような配列の仕方をした方がいいよね。きっと、鈴木さんがそう思うんだから、他の人もおそらくそう思っているかもしれないよ。

鈴木委員

もう一つ、読書通帳でしたっけ。そういうのも、ちょっとお金がかかることかも知れませんが、言ったらもらえるじゃなくて、みんなに上げて、使わない人もいるかもしれませんが、そういうふうにみんなに上げるようなそういう形は取れないものですかね。

学校なんかは図書カードがありますから、結構図書カードをいっぱいにしてほしいなと思っていてるんです。そういう理由で、図書

館に通う子もいるんですね。

そういうのがあると目安になって、何かもう少し図書館に足を運ぶ人も増えてくるんじゃないのかなって気がします。図書館に行かないとわからないとか、図書館に言わないともらえないとかじゃなくて、もう少しその辺、工夫できないのかなっていう気がします。以上です。

議長（塩崎会長）

読書通帳ももう長いんですよ、結構。ただみんな知らない人が多いかもしれないけどね。

やっぱり読書通帳も使ってる人は使ってるんでね。すごく評判もいいんですよ。要するに読者の方があんまり見てない面もあるのかもしれませんがね。

だから、もうちょっと紙面をいろいろ考えて作って、それで原稿渡せばね。

今そうしてるのかどうなのかわからないけど、原稿こっちで作ってわかりやすい原稿にして、それで作ってる方に出せばね。館長。

小林中央図書館長

図書館の一番の問題点は、利用者は特定の人が使ってるんですね。ですから人口の1割程度の人しか来ないわけであって、残りの9割の人達を引っ張ってくるわけにいかないもんですから、図書館に本があるのは当然なんですけれども、こんな事業もやってるよってことで、基本的に事業のことを、イベントのことを載せてるんですね。

だから、そういった意味ではこれは「図書館行こう」って書いてありますが、これは「公民館へ行こう」であっても何ら違和感を感じないページになっておりまして、これは久喜に限らず、日本国中、日本全体の図書館の問題点でもあるんですが、電子図書館の問題もあるし、コロナの問題もあるし、大逆風なんですね。指定管理者の私が言うのも変なんですけど、これは、指定管理者だ市がやってるんだってこととは全然別問題です。

要するに、人が本を読まないわけであって、読まない人に読めというのとは、勉強しない人に勉強しなさいというのと同じであって、これは楽しいことであったり、役に立つことと自分で気が付いた人は当然そんなことは人に強制されずに来るわけであっていいんですけれども、多くの人は時間がなかったり、知らなかったり、ほかに楽しいことがあったりして、本を読まなくても別に生きていけますから。

ご飯を食べるためにはスーパーマーケットに行かなくちゃいけないですが、生きていくために図書館に行かなくてもいいわけであって、そういった意味で我々はもっと根源的に本を読むとこないいいことがあるばかりではなく、本は楽しいんだと、人生に彩りを与えるんだ、さらには生きるのに困ったときに助け船にもなってくれるんだってことを、もっともっといろんな場面で、今委員の方がおっしゃったようにアピールしていかなくちゃいけないなっていうことは、日々考え悩んでおります。申しわけございません。お答えにはならないんですが、広報という意味では大変難しい問題でありました。

議長（塩崎会長）

はい、ありがとうございました。確かに新聞もとらない人がもう大分増えちゃってね。新聞屋さんなんか、朝日新聞なんかは久喜営業所が鷺宮の方にいっちゃうとかね。そういう時代だから、読書率も減っているっていうのも重々わかります。

また文明の力が発達しちゃって、スマホ等々でみんな間に合わせちゃいますからね。

本当に図書館に対するアピール度なんかを考えていかないといけない時代に来たのかなと思います。ぜひ、指定管理者の中心として、我々も応援するから、一生懸命考えていきましょう。みんなで頑張ってください。

小林中央図書館長

はい。

議長（塩崎会長）

それではこれで、令和3年度事業の中間報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

最後に、その他について、事務局お願いします。

事務局（諏訪課長補佐）

その他についてです。次回の日程ですが、今回は、令和4年度の事業計画についてを予定しております、来年3月に開催したいと考えております。事務局からは以上です。

議長（塩崎会長）

はい、議会事務局の方から次回、来年3月、事業計画についての報告ということでございます。

これは事務局の方にお任せするというので、よろしいですか。

（事務局一任の声あり）

議長（塩崎会長）	<p>一任ということによろしいですかね。</p> <p>はい。ありがとうございます。ということで諏訪さん、お願いします。</p>
司会（諏訪課長補佐）	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>それでは閉会にあたりまして、松本副会長からごあいさつをお願いいたします。</p>
松本副会長	<p>～閉会あいさつ～</p>
司会（諏訪課長補佐）	<p>以上をもちまして、令和3年度第2回久喜市立図書館運営審議会を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>
<p>会議のてん末・概要に相違ないことを証明するためにここに署名する。</p> <p>令和3年11月26日</p> <p style="text-align: center;">久喜市立図書館運営審議会</p> <p style="text-align: center;">委員 鈴木 一雄 _____</p> <p style="text-align: center;">委員 芋川 修 _____</p>	